

世界を変えよう基金 報告書

団体名：インドワークキャンプ団体 namaste! つくば支部

活動内容：インドのハンセン病コロニーにおいてワークキャンプ活動を実施し、回復者の社会的尊厳の回復と経済的自立を促進すること。

活動期間：【チャクドラコロニー】2019/8/15 - 2019/9/4

【マニプールコロニー】2019/

【カルヤンプルコロニー】2019/9/14 - 2019/9/22

プログラム実施に至った経緯と目的

私たちはインド国内のハンセン病回復者とその家族に対する差別解決を目的として活動しています。ハンセン病コロニーの人々は差別が原因で進級・進学が難しく、定職に就くことができないために、物乞いで生計を立てている人も少なくありません。そのため最低限度の生活環境が保障されず、その状況がコロニー外の人からの差別を更に助長させるという悪循環に陥っています。私たちはワークキャンプを実施することでコロニーの生活環境を改善するとともに、外部の人が抱く差別意識とハンセン病コロニーの人々自身もつ被差別意識の解消を目指しています。

2019 年秋キャンプ報告

私たちは2019年の夏、2つのハンセン病コロニーでのワークキャンプと、一つのコロニーで笹川財団の委託を受けた調査を行ないました。以下、コロニーごとに今回キャンプの内容をまとめます。

【チャクドラコロニー】

○キャンプ内容

今回行った主なプロジェクト（以下PJ）はワークPJ、リサーチPJ、絵本PJ、学校へ行くPJです。今回のワークPJでは、全家屋の床の修繕を行いました。また、前回ワーク対象であった家屋の新築が完了したことを確認しました。そして、今回一軒の家屋の新築を決定し、開始しました。キャンパーによるワークの手伝いも行いました。リサーチPJ

では、家屋・差別問題・トイレ・自動ポンプ及び貯水タンク・子供の就労についてリサーチしました。絵本PJは前回と同じようにESAが寄付してくれた本を一人一冊もっていき、読み聞かせを行いました。また、学校PJはチャクドラの子どもたちの教育の現状を把握するために今回新たに始め、Bahadurpur High School & High Secondary Schoolに行くことができました。

○活動を通じて得た成果・反省

ワークPJでは、新築の完成の確認、床の修繕の完了、家屋の新築に取りかかるのを見届けることができました。村人をワーカーとして雇用し、雨期の仕事提供になったのは今回の成果ともいえますが、自分たちの家を自分たちで建てるのに労働費用を出すことの是非、そしてお金の使い道の管理については再考しなければならないことでもあります。リサーチPJでは、家屋については今後のワークにつなげるリサーチができました。差別問題はやり方に問題があったことが反省として挙げられます。しかし、全体としてハンセン病に対する周囲の村の差別意識は低下してきている傾向がみられました。トイレに関しては習慣やトイレの構造上の問題など根深い問題があることが発覚しました。また、近隣の大学建設に伴う今後の意識の変化、下水道事情の変化も関係してくるので早急に動くべきではないこと、優先度も低いことから、一旦保留になる予定です。貯水タンクは、あると聞いていたものが稼働しておらず、自動ポンプについては必須とは言えない状況でした。調査した結果これらのニーズは低かったため、今後の活動で取り扱う予定はありません。子供の就労についてですが、親も子も、仕方がないこととして就労を捉えており、実際は教育を受けさせたいと希望している家庭がほとんどでした。職種やそれぞれの就職の仕方についての知識は乏しかったため、今回通訳の方などに聞いた情報の一部を親と子に還元しました。絵本PJについては、本の数が子供の数に対して飽和状態となりつつあるため、次回以降は現在ある本の活用に重点を置く予定です。学校PJについては、実際に学校に行き、授業形態、仕組み、経済的に貧しい家庭への配慮など様々なことを調査することができました。

○プログラム達成状況

ワークPJは今回の目標を達成したため、今後も引き続き進めていきます。しかし、雇用の問題やお金の使い道など考え直す必要があります。リサーチPJについては現状を把握することができましたが、解決策を見つけるには至りませんでした。絵本PJは、絵本を完成させ、プレゼントすることはできましたが、読み聞かせ自体の時間は短くなってしまいました。学校PJでは、実際に学校に行くことができたうえ、全家庭の親子に教育についての意見を聞くことができた一方で、差別教育の現状や学校で村の子どもたちがどう過ごしているのかについて調査することはできませんでした。

○今後の抱負

子供の就労、学校の問題は密接に関連している一方で、それぞれに固有の事情もあるため、安易な因果関係に収着させずに今後もリサーチを進め、適切な対応策を考えていきたいです。差別問題は今回の反省を踏まえ、方法を変えて再び村外リサーチを行うこと、村内リサーチを実施することなどを考えています。



【マニプールコロニー】

○キャンプ内容

今回の主なプロジェクト（以下PJ）はリサーチPJ、歯磨きPJ、じじばばパーティPJです。リサーチPJでは、マニプール近隣の村であるジアラにおいて、ハンセン病とマニプールに対する意識調査および、ビラ配布による啓発活動を行いました。歯磨きPJでは、小学校と孤児院にて、子供たちに歯磨きの仕方とその重要性のレクチャー（紙芝居&歯の病気の写真による啓発）を行いました。じじばばパーティPJでは、Old Age Homeにて簡単なレクリエーションを行ったのち、お菓子とお茶を振る舞い、交流を深めました。

○活動を通じて得た成果・反省

今回の活動を通じて、とても多いというわけではないものの、ジアラには確かにマニプールへの差別が存在することが分かりました。ビラの配布により知識は与えられたものの、長年にわたってハンセン病に対し差別意識を持っている場合、これを変えることは容易でなく、一朝一夕で解決するものではないということが改めて感じられました。

○プログラム達成状況

ジアラでのリサーチは今回のみで、次回もジアラと関わるプロジェクトを行う場合は、全く別のアプローチを考え、行います。歯磨きPJに関しては、子供たちの歯磨き習慣を身につけてもらうことを目的として、次回も引き続きマニプールで行います。

○今後の抱負

マニプールのキャンプはもうじき終了させるという方針です。そのために必要な、差別状

況に関する項目を埋めるため、リサーチ中心に行っていく予定です。



【カルヤンプルコロニー】

○キャンプ内容

参加者：学生 11 名（団体でインターンシップ中の学生 2 名を含む）、団体職員・理事それぞれ 1 名、計 12 名。なお、予定ではもう 1 人参加予定でしたが、インド渡航時より体調不良が続き活動には参加できませんでした。

インド西ベンガル州バンクラ県にある、Kalyanpur ハンセン病コロニーに住む 230 世帯および Mongal Chandi ハンセン病コロニーに住む 18 世帯、計 248 世帯に対し、各家庭の基本情報とハンセン病に関する調査を実施しました。また、コロニーのリーダーに対してはコロニーの基本情報についての調査をあわせて実施しました。キャンプ期間中は英語と現地語（ベンガル語）が話せるインド人通訳を雇い、日本人 1-2 名とインド人通訳 1 名がグループになり調査を行いました。

主な調査項目は以下のとおりです。

各世帯に対する調査：

家族構成、居住環境、就労・教育状況、世帯収入、ハンセン病罹患歴や後遺症、障害者証明書の有無、政府からの支援・年金・その他国民に対して提供される各種サービスの受給状況、差別を受けた経験の有無とその詳細、周辺地域とコロニーの交流関係、差別状況の変化の有無とその詳細

リーダーに対する調査：

コロニーの正式名称、住所、設立年、最寄りの公共サービスへのアクセス、土地所有状況、コロニー内にある公共施設、病院へのアクセス

○活動を通じて得た成果・反省

成果：

西ベンガル州には、ハンセン病コロニーの人々によって形成される自助組織が存在しますが、その組織ですら各コロニーの基本的な情報や現在の状況をあまり把握しきれていないのが現状です。そのため、今回のキャンプにおいて2つのコロニーの詳細な調査を実施したことにより、これまで誰も把握していなかったような情報を得て、まとめることができたことが今回の活動の成果といえます。特に、政府からの支援や年金受給状況、その他国民に対して提供されるサービスの受給状況については、当団体でもこれまで一切調査を行ってこなかったが、今回それを調査したことにより、政府による支援状況を鑑みたうえで活動を行っていくことが可能になりました。

Mongal Chandi ハンセン病コロニーについては、計画段階では調査対象ではありませんでした（存在が認知されておらずリストに名前がなかったため、Kalyanpur ハンセン病コロニーの一部だと認識されていた可能性が高い）が、今回の調査によってその存在を認識することができ、かつその実態を明らかにすることができました。

反省：

調査内容については多少の不備が見られたため、今後調査を行う際には改善していく予定です。また、調査対象世帯数が多かったために、丁寧な調査よりも数をこなすことを優先してしまっていました。そのような行動が見受けられた際や、その日の調査をすべて終えた後の内容共有の場で、適宜注意喚起を行って対処をしました。

○プログラム達成状況

Kalyanpur コロニーに住む世帯の98%への調査が完了しました。残りの2%は、キャンプ開催時に不在であったために調査を実施できませんでしたが、インドに引き続き滞在する団体インターンシップ生2名が再度コロニーを訪問し調査を行う予定です。

Mongal Chandi ハンセン病コロニーに住む18世帯への調査はすべて完了しました。

○今後の抱負

リサーチキャンプに参加した学生のほとんどは日本へと帰国していますが、団体インターンシップ生2名が他のコロニーでも引き続き調査を行い、西ベンガル州のハンセン病コロニーの実態を把握していきます。西ベンガル州には現在35のハンセン病コロニーが存在しますが、そのうちの11カ所（キャンプで調査をした2カ所も含む）で調査を実施予定です。

また、今後当団体が新たなコロニーにて活動を始めるにあたって、どのコロニーで活動を行っていけばよいのかを判断する基準として、今回実施した調査（これから実施する調査

も含む) で得られた情報を活用し、団体の活動を拡大させていきます。

